

暗唱のすすめ 百人一首編⑧

三十六 なつ よ よい あ
夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを
くも ズ つぎやど ン
雲のいづこに 月宿るらむ

きよはらのふかやぶ
清原 深養父

三十七 しらつゆ かぜ ふ あきの
白露に 風の吹きしく 秋の野は
たま ちり
つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける

ふんやのあさやす
文屋 朝康

三十八 わす み おもワ ちかイ
忘らるる 身をば思はず 誓ひてし
ひと いのち お
人の命の 惜しくもあるかな

うこん
右近

三十九 あさじう おの しのはら
浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど
ひと こい
あまりてなごか 人の恋しき

さんぎひとし
参議 等

四十 いろ い こい
しのぶれど 色に出でにけり わが恋は
もの おもウ ひと とウ
物や思ふと 人の問ふまで

たいらのかねもり
平 兼 盛